

オンラインシステム NACISIS-CAT ニュースレター

学術情報センター [〒112 東京都文京区大塚3-29-1]

目録情報課

図書目録情報係	TEL:03(3942)6983, 6984	FAX:03(3944)7131
雑誌目録情報係	TEL:03(3942)6985, 6986	FAX: 同上
相互協力係	TEL:03(3942)6987, 6988	FAX: 同上
共同利用課	TEL:03(3942)6933, 6934	FAX:03(3942)6797
システム管理課	TEL:043(285)4914, 4915	FAX:043(290)1380

目 次

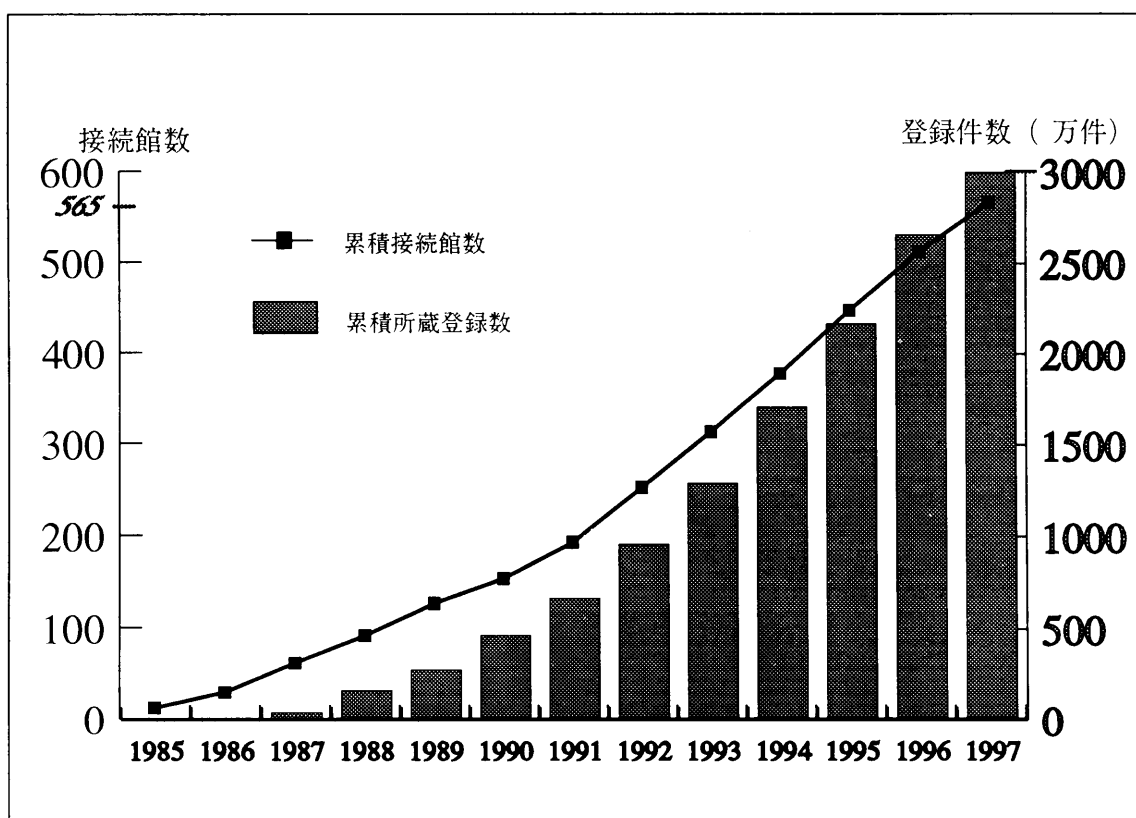
1. 図書所蔵レコード3,000万件突破！	2
2. 新CAT/ILLシステム説明会の開催	3
3. 新目録所在情報システム開発用資料の公開	4
4. リンクフィールドの自動更新	5
5. 「目録情報の基準」第3版の刊行	6
6. コーディングマニュアルの刊行	6
7. 学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国説明会の開催	7
8. 学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国調査の注意点	8
9. 複写データ処理センター業務報告	9
10. 徴収猶予許可番号の統一	9
11. 目録システムに関する質問から	10
12. 会議開催報告	11
13. レコード調整	13
(付) CATP/1.0仕様書(第2版)	
(付) 新CATクライアントシステム作成のためのガイドライン(第2版)	
(付) 新ILLクライアントシステム作成のためのガイドライン	
(付) コーディングマニュアル	

図書所蔵レコード件数 3,000 万件突破!

平成 9 年 11 月 28 日(金)に、総合目録データベース図書所蔵レコードの件数が 3,000 万件を突破しました。昭和 60 年 7 月に第 1 号の所蔵レコードが登録されてから、12 年 4 か月めの達成となります。以下のように、1,000 万件から 2,000 万件を達成するまでは 2 年 7 か月かかりましたが、3,000 万件までは 1 年 11 か月で達成することができました。

•1,000 万件	平成 5 年(1993 年) 4 月 27 日	—	7 年 9 か月で達成
•2,000 万件	平成 7 年(1995 年)12 月 1 日	—	10 年 5 か月で達成
•3,000 万件	平成 9 年(1997 年)11 月 28 日	—	12 年 4 か月で達成

今回の 3,000 万件突破も、ひとえに総合目録データベースの充実を目指して積極的に参加くださった各参加機関各位の御尽力の賜物です。この場を借りて改めてお礼申し上げ、より一層の御協力をお願いいたします。



接続館数及び所蔵登録件数の推移 (1997年11月現在)

(図書目録情報係)

新 CAT/ILL システム説明会の開催

新目録所在情報システムの利用・開発の現状を知っていただくために、新 CAT/ILL システム説明会を開催します。

新 CAT システムの開発テスト用サーバは平成 9 年 4 月から、また業務用/教育用サーバは平成 9 年 11 月から公開し、既に一部の機関に利用いただいております。各メーカーでの、新 CAT/ILL 対応図書館システムの開発も、具体化されてきています。

そこで、多くの方々に新 CAT/ILL システムの具体的な姿を御覧になっていただくため、以下の説明会を全国数ヵ所で開催することとしました。開催時期は、平成 10 年 2 月中旬～2 月下旬を予定しております。

この説明会では、新 CAT/ILL システムの現状および対応システムの事例報告を中心としております。各図書館における、図書館システムの開発・導入の参考にしていただけるものと考えております。

日時・場所等の詳細については、別途御案内いたします。

内容(予定):

1. 新 CAT/ILL システムの現状・今後のスケジュール
2. 新 CAT/ILL 対応システムの開発事例報告
 - (1) 新 CAT 対応クライアント
 - (2) 新 ILL 対応クライアント
 - (3) 新 CAT 対応所蔵自動登録クライアント
 - (4) 新 ILL 対応文献画像伝送システム

(図書目録情報係)

新目録所在情報システム開発用資料の公開

学術情報センターでは、新目録所在情報システム(新 CAT/ILL)を開発するための技術的資料を、WWW を通じて公開しています。情報を迅速に入手していただくために、このような方法をとっておりますが、より多くの方々に知っていただくために、本号には以下の 3 種類の技術資料を付録として掲載することとしました。今後の図書館システムの開発等に御活用ください。

1. CATP 1.0 仕様書(第 2 版)

本資料は、新 CAT/ILL システムで採用しているプロトコル「CATP」の仕様書です。新 CAT/ILL システムにおける、クライアント(図書館側システム)とサーバ(NACISIS 側システム)間のメッセージ交換方式(データ交換方式)を規定しています。

既に本仕様書は、「CATP 1.0 仕様書(暫定版)」として本誌 56 号(1996.9.30)に掲載しました。今回は、その後の仕様変更を反映した最新の仕様となっています(暫定版以後、第 1 版を WWW で公開しました)。仕様変更の履歴は、本仕様書の冒頭に掲載してあります。

2. 新 CAT クライアントシステム作成のためのガイドライン(第 2 版)

この資料では、新 CAT システムを利用するためのクライアントシステムを作成するために必要な基本的事項、新 CAT のファイル構成や CATP によるオペレーション等を解説しています。また、新 CAT クライアントが備えるべき要件を規定しています。本誌 56 号の付録に掲載したもの(第 1 版)の改訂版となります。

3. 新 ILL クライアントシステム作成のためのガイドライン

新 CAT のガイドラインと同様、新 ILL システムのクライアントシステムを作成するために必要な事項を解説した資料です。このガイドラインは、今回初めて公開するものです。

(図書目録情報係)

リンクフィールドの自動更新

平成9年11月4日から、リンクフィールドの自動更新機能を実現しました。

これは、リンク先のレコードを修正した時、対応するリンク元のレコードのリンクフィールドを自動的に更新するものです(レコードとリンクフィールドの対応は、下の表のとおりとなっています)。これにより、リンク先レコードの修正による再リンク作業が不要となり、修正時の手間が軽減されることとなりました。

この自動更新は現在、1分おきに行われます。よって、この自動更新が行われる前にリンク元のレコードを修正し登録しようとする時、従来通り強制リンクが発生することになりますので注意してください。

なお、この自動更新は業務用データベースでのみ動作します。

リンクフィールド自動更新対応表

修正レコード	自動更新対象レコード	自動更新対象フィールド
図書書誌レコード(親書誌)	図書書誌レコード(子書誌)	PTBL
著者名典拠レコード	書誌レコード	AL
	著者名典拠レコード	SAF
統一書名典拠レコード	図書書誌レコード	UTL
	統一書名典拠レコード	SAF

著者名典拠レコードの修正を例にとると、以下のようになります。

著者名典拠レコード A の HDNG フィールドを修正する。

1分後に、著者名典拠レコード A にリンクしている各書誌レコードの AL フィールドが、修正された HDNG の形に自動更新される。同時に、「をもみよ参照」にてリンクしている著者名典拠レコード B があれば、著者名典拠レコード B の SAF フィールドも自動更新される。

(図書目録情報係)

「目録情報の基準」第3版の刊行

平成9年12月、目録システム利用マニュアルのデータベース編として刊行している「目録情報の基準」の改訂を行い、第3版として刊行することとなりました(平成10年1月1日から適用)。

今回の改訂は、平成8年度以来、図書館目録担当者からなる総合目録小委員会で検討を重ねてきた結果、完成したものです。内容的には、和洋ファイルの統合やレコードの即時更新などの、新目録所在情報サービスへの移行段階でのシステム的な変更を反映したものとなっています。主な改訂点は、次のとおりです(詳細については、本文の「改訂に当たって」を参照してください)。

- (1) 和洋ファイルの統合を反映した
- (2) レコード項目一覧と記述文法は、コーディングマニュアルに掲載することとした
- (3) 基本辞書の変更をした
- (4) 用語の変更・統一を行った
- (5) 索引を追加した

なお、この「目録情報の基準」は、新CATシステムへの完全移行や総合目録データベースの多言語化が実現する時点で、更に改訂を行う予定です。

(図書目録情報係)

コーディングマニュアルの刊行

コーディングマニュアル未刊行部分のうち、今回は、「第7章 洋雑誌書誌レコード」及びその関連部分、「第25章 著者名典拠レコード(日本名)修正指針」を刊行します。今回のコーディングマニュアルの作成は、目録情報の基準の改訂と同様に、平成8年度以来総合目録小委員会で行ってきたものです。

[洋雑誌書誌レコード]

今回の刊行は、洋雑誌書誌レコードの記述ブロックの部分が中心となります。コードブロックと変遷ブロックについては、既に和雑誌書誌レコードの部分が刊行されていますので、それを参照してください。また、和洋共通に適用される、「新規書誌レコードの作成」と「第23章 雑誌書誌レコード修正」も同時に刊行しました。今回の刊行部分の、主な特色は次のとおりです。

- (1) AACR2の最新の改訂(AACR2. Amendments.1993)までの内容を反映している。
- (2) 準拠するAACR2を参照しなくとも、規定の内容が分かるような記述とした。
- (3) NACSIS独自の規定については、それを明示した。
- (4) 実データの事例を、できるだけ数多く示すようにした。

[著者名典拠レコード(日本名)修正指針]

著者名典拠レコードの修正指針は、今回が初めての刊行となります。基本的には、修正項目を発見した館が、独自に当該レコードを修正できることとしました。ただし、重要な部分の修正については、学術情報センターへの連絡と、修正に関する注記が必要となります。

引き続き総合目録小委員会では、「第6章 和雑誌書誌レコード」と「第12章 著者名典拠(日本人以外:団体名)」の作成作業を進め、平成10年に刊行する予定です。

(図書目録情報係)

学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国調査説明会の開催

本誌前号(No.60)でお知らせしました学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国調査説明会を、平成9年10月28日～11月7日にかけて全国7か所の会場で合計8回開催しました。今回の全国調査説明会には、各図書館(室)から合計983名にのぼる方々に御参加いただきました。各会場毎の参加者数は、以下のとおりです。

対象地区	開催年月日	会場	参加者数
北海道地区会場	平成9年11月6日(木)	北海道大学	57名
東北地区会場	平成9年10月30日(木)	東北大学	54名
関東・甲信越地区会場	平成9年10月31日(金)	東京医科歯科大学	404名
中部地区会場	平成9年11月7日(金)	名古屋大学	111名
関西地区会場	平成9年10月28日(火)	大阪大学	169名
中国・四国地区会場	平成9年10月28日(火)	岡山大学	67名
九州・沖縄地区会場	平成9年11月5日(水)	九州大学	121名

平成9年10月24日時点の集計では、今回の全国調査には、853機関、1,243図書館(室)が参加される予定となっています。これは、前回の欧文編の調査時に比べ、機関数にして22%多い規模となります。

説明会では、データシート館を主な対象として、全国調査の意義と概要、作業手順や所蔵データおよび書誌データの記入の仕方を中心とした調査・報告方法の説明を行い、その後、希望者向けにCD-ROM全国調査システムの説明を行いました。

また今回は、説明会で説明したものと同内容の解説を、WWWでも公開します。目録情報課のホームページ(URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/welcome.html>)から御利用ください。

(雑誌目録情報係)

学術雑誌総合目録全国調査の注意点

全国調査説明会でも説明しましたが、オンラインで書誌・所蔵データを報告される図書館には、いくつか注意していただく点があります。以下のとおり、あらためて本誌でも紹介します。

1. 雑誌書誌レコードの記述について

本号付録として「コーディングマニュアル - 洋雑誌書誌レコード」を刊行します。基本的な部分は「全国調査マニュアル」の「書誌データ記入解説」と同内容ですが、より詳しいものとなっていますので、書誌レコードの作成に当たっては参照してください。また、今回のコーディングマニュアルは、英米目録規則(AACR2)の改訂を反映した内容になっています。AACR2の改訂内容については、「オンライン・システムニュースレター 抜刷集 No.1 ~ No.55」(1996年9月)の「AACR2の改訂」を参照してください。

2. オンラインシステムの改訂について

平成10年1月から、TTLL,TXTLフィールドが「必須1」項目となります。この2つのフィールドが空白のままでは、レコードの更新ができません。詳しくは、本誌 No.60の「言語コードの必須化」(9p.)を参照してください。

3. 削除予定レコードについて

本誌 No.60の「雑誌目録システム運用の一時変更」でもお知らせしましたが、編集期間中は、重複書誌レコードを見つけても「削除予定レコード」に修正しないようお願いします。

4. データ報告の締め切りについて

今後のスケジュールについては以下のとおりです。

・書誌データ, 所蔵データ(磁気テープ)の報告締切	平成10年3月31日
・磁気テープ・パンチデータのロード作業	平成10年4月 ~ 7月
・所蔵データの採取	平成10年8月
・データの編集作業	平成10年4月 ~ 平成11年3月

現在のところ平成10年8月に書誌・所蔵データを採取する予定です。よって、所蔵データをオンラインで報告する場合、データ採取前の7月までに登録・更新したデータが1998年版に反映されることとなります。ただし、書誌データの報告及び情報源の提出については、オンライン館の場合も平成10年3月31日(火)の締め切りは守っていただくようお願いします。

平成11年3月末の新版刊行まで、皆様の御協力をよろしくお願いします。

(雑誌目録情報係)

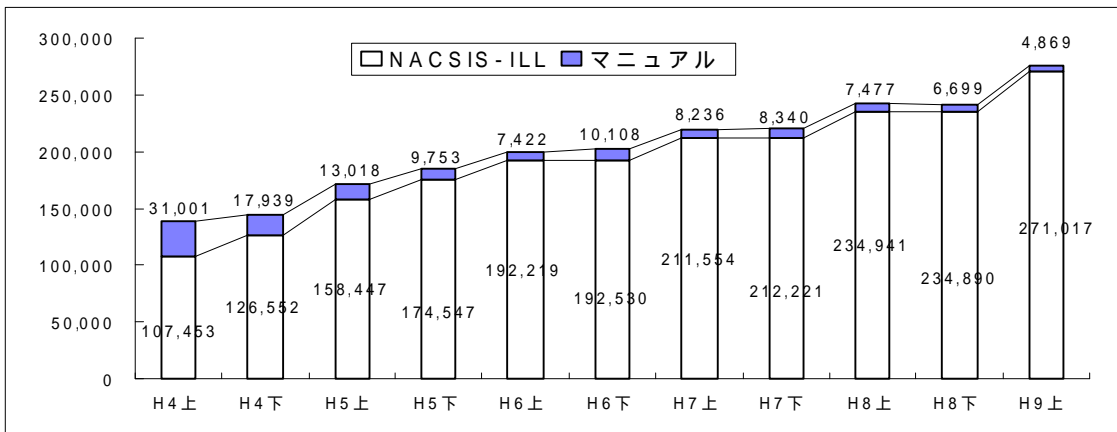
複写データ処理センター業務報告（平成9年度上半期）

「国立大学等図書館間相互における文献複写業務の改善について」（文学情第317号 昭和53年12月19日）及びその実施要項に基づき、文献複写経費のデータ処理を平成9年10月に行いました。処理件数は以下の通りです。

（件）

平成9年度上半期		マニュアル（依頼書）	NACISIS-ILL	合計
		4,869	271,017	275,886
内訳	大学	1,481	267,697	269,178
	短期大学	41	653	694
	高等専門学校	3,347	2,667	6,014

以下に示す処理件数の推移の通り、NACISIS-ILLシステムの普及が進み、年々、マニュアル処理の比率が下がってきていますが、NACISIS-ILL未参加の組織もあるため、マニュアル処理がまだ相当数の機関で行われています。今後ともNACISIS-ILLシステムの普及に努めるとともに複写データ処理センター業務の合理化を推進いたしますので、皆様にはより一層のご協力をお願いいたします。



処理件数の推移

徴収猶予許可番号の統一

現在各国立大学において任意に使用されている9000番台の徴収猶予許可番号が、平成10年度から統一されることとなり、学術情報センターが国立大学図書館協議会からその番号管理を委託されました。

今後国立大学が、JISコードにない機関に許可番号を与える場合は、以下のURLで検索を行ってその番号を使用するようにしてください。

URL=<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/ILL/kyoka.html>

これに伴い、来年度からはJISコードに定められていない機関においても、許可番号を与られている機関への依頼時に次候補館を指定できるようになります。（相互協力係）

目録システムに関する質問から

Q1: 目録所在情報サービスのサービス時間を延長してほしい。

A1: サービス時間の延長に関しては、多くの利用者の皆様の御意見・御要望を参考にしたいと考えております。現在は、サービス時間終了後にデータベースのメンテナンス作業を行っています(平日 18 時～22 時)。これらの作業の効率化を図り、サービス時間の延長が可能かどうか検討を進めています。

Q2: NDC8 版と NDC9 版で異なる分類について、分類表の版を指定して検索できないか？

A2: search コマンドで検索する場合は不可能ですが、文字列検索を行う scan コマンドを使えば可能です。一旦、何らかのキーワードで検索結果集合を作成してから、コマンド行に scan コマンドで「CLS=NDC9: x x x」と指定します(「目録システム利用マニュアル 検索編」第 3 版, p.140, 147, 287 を参照)。

Q3: 目録情報に関する質問書/回答書データベースをよく利用しているが、データの更新回数を増やせないか。また、目次形式で一覧できる機能やキーワード一覧機能を追加してほしい。

A3: 今までは年1回の更新でしたが、今後は回数を増やすことを考えたいと思います。

システム改善の目次形式一覧については、データ件数が多いので、目次形式での利用は使いづらいと思います。現在の機能でも、ファイルやフィールドなどの条件で大まかな検索をして、簡略表示させてから一覧することで同様の使い方が可能だと思います。

また、キーワード一覧機能については、現在のシステムは質問書全文の文字列検索を行っているので、実現するためには、システムの大幅な変更が必要です。御要望は、具体的にどのようなキーワードが有効かを知りたいということだと思います。指定可能な件数を増やしたり、キーワードの指定方法の解説を充実することで、御要望にお答えしたいと思います。

Q4: 書誌レコード調整関係の手引き・資料集を作成してほしい。

A4: 基本的にはコーディングマニュアルを読んで、理解していただきたいと思います。

ただし、初めての担当者向けの解説のようなものは必要と思われるので、作成について検討いたします。

(図書目録情報係)

会議開催報告

[平成9年度第1回 総合目録委員会]

[日時]

平成9年11月10日(月)14:00～15:30

[議事]

今回はまず、平成9年度の各事業計画について報告と質疑応答を行った。ついで、総合目録小委員会で作成した「目録情報の基準」の改訂(案)についての審議を行い、原案どおり承認した。

今後、中国語資料及び電子化資料に関する対応を引き続き総合目録小委員会で検討し、マニュアル等に反映させることとした。

1. 目録所在情報サービス関連事業報告について
2. 新目録所在情報システムについて
3. 平成9年度目録所在情報サービス関係システム開発計画について
4. 平成9年度教育・研修事業について
5. 平成9年度総合目録小委員会の審議経過について
6. 「目録情報の基準」の改訂について
7. その他

[平成9年度第2回 総合目録小委員会]

[日時]

平成9年10月2日(木)14:00～17:00

[作業状況報告・審議]

今回で、「目録情報の基準」改訂(案)と洋雑誌コーディングマニュアル(案)についての検討を完了した。引き続き、「電子ジャーナル等の電子化資料の取り扱いについて」、「和雑誌コーディングマニュアル」、「コーディングマニュアル著者名典拠(日本名以外:団体)」についての検討を行うこととした。

1. 「目録情報の基準」の改訂について
2. 雑誌コーディングマニュアルの作成について
3. 中国語資料の取り扱いについて
4. 言語コードの必須化について

5. 韓国・朝鮮語資料の注記について
6. 今後の検討スケジュールについて

[平成 9 年度第 3 回 中国語資料データベース化検討ワーキンググループ]

[日時]

平成 9 年 10 月 9 日(木)14:00 ~ 19:30

[作業状況報告・審議]

今回のワーキングでは、ヨミの取り扱いなど書誌記述に関わる問題を前回に引き続き審議したほか、古籍の取り扱い、統一書名典拠レコードの作成基準についての検討を開始しました。

1. ヨミ・分かちの規則について
2. 書誌記述の基準について
3. 古籍の取り扱いについて
4. 統一書名典拠レコードの作成基準について
5. 雑誌書誌レコードの作成基準について

(図書目録情報係)